
ミッション・スクール～俺が変わる日～

空井美保

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミッシヨン・スクール〜俺が変わる日〜

【Nコード】

N3713BA

【作者名】

空井美保

【あらすじ】

マザコンなのにマザコンと気づいていない園川 優。

優は現在高校3年生の18歳で頭も良くて、イケメン。

東京1頭の良い学校に通っていた。

そんな優は宇宙1母ちゃんが好きで、一日中母ちゃんのことしか考えていないマザコン男子。

そんな優の母、美恵子は母性など一切なく、男らしくなってほしいと思うばかり、そんな恵美子もついに優にあることをやらせた。

それはお嬢様と執事の通う学園に転校させること?!

「俺は母ちゃんが宇宙一大好きだ！」（前書き）

理想の息子が放送されますが、マザコンのお話もいいかな？なんて
思い

さっそく書いてみました。

全然、下手な小説で読みづらいかと思いますが
是非呼んでみてください。

感想や評価もお願いします。

「俺は母ちゃんが宇宙一大好きだ！」

俺は母ちゃんが大好き。

世界一大好き。

宇宙一大好きだ。

俺は園川 優、現在高校3年生。

頭はよく、東京1頭の良い学校で有名な

「川野辺高等学校」

俺はこの3年A組。

クラスでは園川と言われている。

こんな俺でもクラスの中では2位ぐらいの成績で
母ちゃんを喜ばせるのが毎日の楽しみ。

そんな俺は、母ちゃんの言うことなら何でも聞く。

逆らえない。と、いうか逆らうって言葉っていつ使うんだ？

言われたことならなんでもやってしまう俺は

なぜか、お嬢様と執事の学園

「イチジク若野宮学園」に転校することになった？！

今日の朝、いつもの学生服で出かけようとする俺。

「母ちゃん、今日も俺！テスト100点取るから！」

いつもの母ちゃんなら、絶対に

「じゃあ、期待して待ってるわ」

絶対にこう言うに決まってる、絶対に！

だけど今日は違った

出かけるときのいつてらっしやいもなかった。

「あんた、学生服違っ！着替えなさい！」

「え？」

母ちゃんが持っていた学生服の胸元には
イチジク若野宮学園の印が・・・。

「俺、何にも聞いてないけど!!」

「あんた、いつまでも甘ったれてるんじゃないの!!」

初めて母ちゃんが怒った。

「今日から、母さんにベタベタしない。」

「え?」

「母さん、今まで、あんたに母性なんてなかったんだから」

「え? まじで?」

「いいから早く行きなさい!」

背中を押されて、玄関から出てきたものの
俺、これからどうすればいいんだろう。

執事って1日中お嬢様と居ないといけないし

お茶とかお菓子とか出すし・・・

あの学園、クラスメイトから聞いたけど、寮生活してるらしいし・・・。

「はあ・・・・・・・・・・」

そのとき、誰かが俺の肩に手を当てた。

後ろを振り返ってみると、誰も居ない・・・。

気のせいかと歩き出すと

目の前に、あの学園の男が居た。

多分同じ年齢の・・・。

「君、今日から転校なんですよ?」

「あ、あ、なんですか・・・?。」

「僕、京谷 岬、学年だと3年、よろしくね!」

彼はあの学園の生徒で、昨日に転校してきたという。

俺の家の近くに住んでいて、現在見習い執事。

「まだ、全然慣れてないけど、すごい学園だよ！あの学園」

「何が？」

「僕、みんなからよく、マザコンマザコンって言われてて」

俺はマザコンではない。マザコンってベタベタして

恋愛も出来なくて・・・っていうのがマザコンで

俺はただ、母ちゃんが世界一、いや、宇宙一大好きなだけ。

これはマザコンではない。

立派なマザコンです。

「それで、お父さんに無理やり入れられたんだ、イチジク若野宮学園に」

「マザコンか」

「さっき、君が家から出てくるとき、母ちゃんが好きって言ったよね？」

「それが？」

「君もマザコンなんでしょ？良い友達になれそうだし」

そんなことを言っている間に、俺たちはあの学園にたどり着いた。

立派な大きい学校で、庭、屋上、すべてが大きい。

なんで、俺、こんなところで卒業まで居ないといけないんだろう・・・

「そう言えば、この学園は高校1年生、だから16歳から、20歳までの期間なんだ。」

20歳ってことは、俺は今・・・18歳・・・ってことは、2年間も？
??

冗談じゃねえ・・・なんでこの俺が・・・母ちゃんと離れて、2年間も・・・。

「どう？結構楽しんだよ、お嬢様って感じの子居ないし」
「あっそう。」

「すごい先輩が居て、僕懂れちゃったんだ！」
「あっそう。」

そういえば、俺の名前をまだ名乗っていなかった。

「俺の名前、園川 優。18歳。」

「よろしく！さゝさゝ！中に入ろうよ！！」

引つ張られて学園の中に入ると、お嬢様と執事が朝食をとっていた。
見たことのないご馳走といろんな種類のジュース。
そして、生演奏の音楽が流れていた。

この学園には見習い執事と見習いお嬢様が居る。

そして、花の名前のランクがあり

一番上が無花果^{いちじく}、次が桜^{うめ}、その次が薔薇^{ばい}、一番下が鈴蘭^{すずらん}。

4種類のランクがあり、学園長が日ごろの成績を見て、ランクを上げてくれるらしい・・・。

当然見習い執事、お嬢様はランクなんてない。

「僕らはあっちの教室で言葉遣いとかを習うんだ、その前に学園長にあいさつね」

学園の最上階、5階にある学園長室をノックして入ると
学園長がいすに座っていた。

「まあ、新人お2人。どうかしたのかしら？」

「俺、今日から学園に入ることになった、園川優です。」

「僕ら、見習いバッチをもらいに来ました。」

見習いバッチは見る角度によって色が変わり

これをつけていると、お嬢様は話しかけない。
あいさつを済ませ、2階に向かった。

1階は食事ルーム、お茶会室。

2階は見習い執事、お嬢様部屋。

3階は鈴蘭ランク、薔薇ランクの部屋。

4階は桜ランクの部屋、無花果ランクの部屋。

5階は学園長室、図書室。

見習い生徒同士でペアを組むのだが、そのままランクがついても
ペアの変更はなく、そのままということがほとんどらしい。

京谷のペアは

江川 綾女、18歳で現在見習いお嬢様。

俺のペアは

本郷 桜、18歳で同じく見習いお嬢様。

今日の勉強は言葉遣い。

「お嬢様、お飲み物は何にされますでしょうか？」

先生の後に続いて、10回言っのが正しい勉強の仕方。

「お嬢様、服が汚れるので、抱っこしてさしあげます。」

学園の外には池があり、散歩の時間になると必ずそこを通る。

その際に使う言葉らしいけど、ドラマかよ。

そして勉強が終わり、京谷と庭に出ていると
なにやら拍手の音が聞こえた。

庭にやってきたのはどちらも無花果ランクの

今日の朝にすごい先輩がいるって言ってたけれど、この人のことだった。

スーツもドレスも無花果ランクとなるとやっぱり違う。

「僕、一宮先輩のように強くなる！お母さんもお父さんもそう言うてたんだ。強くなれって」

俺も京谷を見直した。

マザコンって言うから、どんなやつなんだ？って思ったけどよき友達になれそう。

今日から俺たちの執事生活が始まる。

「俺は母ちゃんが宇宙一大好きだ!」(後書き)

次回もお楽しみに!

nanasemmとホームページで検索すると

この小説の詳しい内容や

歌詞なども見れちゃう!!!!!

大事なときに俺、何やってるんだろっ。

俺は今、悩んでいる。

悩んで悩んで、どうにかなりそうだ。

家に帰れるけど、母ちゃんは怒っている。

なんでか？

それは俺も知らない。

「はあ」

部屋に現在、3時間もりっぱなし。

そこに母ちゃんが部屋に入ってきた・・・。

「あんた、そんなんで本当に学園になじめるのかい？」

「それでも、なじめてるんだって、俺はもうAランクだからね」

いつもの癖で嘘をついてしまった。

母ちゃんを喜ばせるためなら、自分の身を削っても喜ばせたい。

そんな時、京谷の家では

「岬？今日はずいぶんとお母さんに話しかけないじゃない」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「僕、強くなるから、甘ったれてなんか入られない！」

俺も京谷も母ちゃんが大好き。

そんな母ちゃん好きから抜け出すために

毎日がんばっているんだ。

一宮先輩にあだ名をつけられた。

「よ！マザコン兄弟！」

さすがにこのままのあだ名だったら

なめなれて終わるだけだ。

次の日

いつもどおりに家を出て

途中の曲がり角に不良生徒に絡まれた。

こんなときに限って

京谷がいない！

喧嘩なんて俺はしたことない！

母ちゃんがいない！

どうしたらいいんだろう・・・。

「お前、マザコンなんだろう？ちよつと顔貸せよ」

そんなことを言って

見たことのない倉庫に連れて行かれた。

10人ぐらいの人たちに、殴られたり、蹴られたり・・・。

唇が切れて血が出て、学生服も泥だらけになった。

「なんで・・・理由・・・理由もな・・・く、殴るんだよ・・・」

「そんなの関係ねえだろ。弱いやつはつぶすんだよ」

ぼろぼろになった俺。

俺は思った。

なんで、何もやり返さないんだろう。

手、足、目、鼻、口、頭、すべてあるはずなのに・・・

使えるはずなのに・・・どうして何も出来ないんだろう。

倉庫の扉が開いて、光がまぶしかった。

「・・・・・・？」

そこに京谷と一宮先輩が立っていた。

京谷は俺を担いで肩を組んで、不良生徒の见えない場所へ連れて行った。

「大丈夫・・・？今すぐ手当てしたほうがいいよ！血が出る」
「・・・・・・・・・・・・・・・・」

俺は知らない間に意識がなくなっていた。

そして目が覚めると、京谷と一宮先輩が目の前に居た。

「俺・・・・・・・・・・・・・・・・」

「よかった！目が覚めて・・・・・・・・」

一宮先輩は不良生徒を倒して、ちゃんと帰ってきていた。
俺もこんな強い男になりたい。

「大丈夫か？園川。」

「ありがとうございます・・・。先輩・・・。」

俺の手の骨が少しだけひびが入っているらしい・・・。

このまま学園に通うにはいけないと先生に言われ
しばらく学園の保健室で生活することになった。

立つことも話すことも出来るけど

手だけが使えない。

2時間ぐらい遅刻をして、先輩にも京谷にも心配をかけてしまった。
今は6月の半ばで、一番学園行事が多い時期。

俺は何も出来ない。

「はぁ・・・・・・・・・・・・・・・・」

その頃、見習いお嬢様と執事たちは自由時間で

京谷のお嬢様の綾女と俺のお嬢様の桜が話していた。

「はぁ～園川くん、大丈夫かな？」

「これから1人だね～桜は・・・。」

「うん。」

なぜか恋愛トークに突入？

「わたし、京谷くんが好きになってきちゃったかも・・・。」

「お嬢様と執事は他人だよ？」

なんと京谷のお嬢様である綾女は京谷を好きになっていた。

「わたし、どっちかっていうと相手を引っ張りたいからさ」

「がんばって!!」

この自由時間を利用して、京谷が保健室にやって来た。

「園川くん・・・手を使わなくて良いから、一回教室に来て!」

あわてて教室に行くと

一宮先輩が教室に居た。

「先輩・・・どうしてここに？」

「今日からマザコン兄弟の兄貴として男になるための特訓をする。」

「園川くん! 僕ら、男になりたいんだ! そのために協力してくれるんだって!!」

今日の俺たちを見て、先輩が兄貴として男になるための特訓をしてくれるらしい。

俺たちは庭に出た。

「まず、優、その包帯を取れ、男は痛みに耐えてこそ男だ。」

包帯を取り、俺たちは学生服をピシッと調べて

姿勢正しく立った。

そして俺は言った。

「いいか京谷、俺らは強くなる。俺らは変わるんだ」

そして京谷と一宮先輩が

「おーーーーー!!!!!!」

放課後、京谷と一宮先輩と待ち合わせをした。

行き先はない。

「今日は運動をしろ、まずは体を鍛える。それが1番だな」

俺らはジャージに着替えて

4時から6時まで無限に走り続けた。

川岸、3行道路、公園、町・・・いろんなところを走り続け
6時になったとたん、先輩は

「よし！2時間走ったな！今日はこれで終わりだ。」

俺らは家に帰れると喜んでたけど、先輩は言った。

「お袋とは目をあわすな、そして、口も聞くな」

俺は疑問に思った。

「え？なんでですか？」

「反抗期を迎える時期をお前たちは逃した。だから今日から反抗期。」

「

先輩が言うには、反抗期を19歳までやり続けて

マザコンを卒業したら、反抗期も自然になくなるらしい。

でも俺はマザコンじゃない。

ただ、反抗期のない、素直に育っただけ。

だけど、自分を変えるため、俺と京谷は

「はい！」

返事をして、すぐに帰った。

ただいまも言わないまま、無言で2階に上がった。

いつもあいさつしてくれる優になれていた恵美子は

「どうしたのかしら・・・？」

すぐさま2階に上がった。

そんなことも考えられると思い、鍵をかけて

ベットにもぐり、目をつぶった。

「優？優！優？ごはんはあ？？？」

「

俺はまだ、骨折しかけたことも、口元に絆創膏をしていることも何も話していない。

「優??優!!ちよつと開けなさい!」

いつの間にか合鍵を作っていた母ちゃんは開けて中に入ってきた。

口を利いてはいけない。目を合わせない。

必死に背中を向けた俺。

「何に怒ってるの?母さんが勝手に学校変えたら?」

「.....」

「優も反抗期がやってきたのね、ご飯置いとくから食べなさい。」
机の上にご飯をおいて

部屋を出て行った母ちゃん。

「.....」

次の日の放課後も

俺と京谷はランニングを1時間して

身だしなみを整えた。

「お前たちは女子にもてる顔だ。今の状態じゃ0点だな。」

「京谷はめがねを取ってコンタクトにしろ。」

「園川は特に直すところはない。性格だな。」

俺はどんな性格にしたらいいか分からないし

俺の性格がどんなのかもよく分からない。

「自分で探せ、見つけてこそ、強くなる。」

先輩は怖い.....

次の日の朝、学園長に呼び出された、俺と京谷。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3713ba/>

ミッション・スクール～俺が変わる日～

2012年1月10日17時50分発行